

やなぎの子

坂戸市立片柳小学校 学校だより
令和8年度6月号（令和8年6月29日発行）
児童数：337名
Tel 283-4735 Fax 289-1015

学校教育目標

よく考え 心豊かに たくましく

【校訓】かしこい子 たくましい子 やりぬく子 なかよくする子 気持ちよく働く子



坂戸市市制施行50周年

《「大丈夫？」という言葉について》 ◎ よく考え ◎ 心豊かに

「大丈夫？」というのが、私、佐藤の口癖の一つです。

教頭として、赴任が決まった際、当時の上司から次のように言われました。

「職員に対して、『大丈夫？』と声を掛けないほうが良いよ。管理職からそう尋ねられたら、職員は『大丈夫です。』としか答えられないからね。」

思い返してみると、担任をしていた頃もよく、子供たちに「大丈夫？」と声を掛けていました。自分の子供にも夫婦そろって、「大丈夫？」と口癖で声を掛けていました。

何年か前、「大丈夫？」という言葉について、娘に指摘されました。

『「大丈夫？」と言われると、『大丈夫。』って、答えなければいけないと思っていた。』

訳を尋ねると、

『「違うよ。」と言いにくかった。』

『「大丈夫じゃない。」って言ったらいけないと思った。』



R8.6.9 田植え直後の水田

親として、ショックでした。振り返ると、私自身が大丈夫と思っていたから。そして、その思いが自分の娘の想いを封じ込めてしまっていました。自分自身を安心させるために、相手に「大丈夫」と言わせていました。

自分の口癖を直そうとしました。物凄く、大変です。今でも「大丈夫？」と口をついて出てきます。そこで、ひと工夫してみました。

「大丈夫？」の次に「どうしたの？」「何かあったの？」を付け足すようにしてみました。

ある日、本校の児童に「大丈夫？ 何かあったの？」と言葉を掛けました。

すると、その子は、「実は・・・」と、その子の想いを話してくれました。私は、「そうか、頑張ったんだね。すごいね。」と言葉を掛けることができました。

もし、よろしければ、ご家庭でも試してみませんか？

《米作り、開始！》 ◎ よく考え ◎ 心豊かに

6月9日(火)、片柳小学校の米作りが始まりました。

と言っても、この日に向けて、米づくりボランティアの方々は、田おこし、畦づくり、育苗と、時間と手間をかけて準備していただきました。

6月に入り、用水路への放水が始まりました。片柳小学校周辺の田んぼに水が張られました。台風6号通過後、次々と田植えが始まりました。

朝8時、米づくりボランティアの方々が水田の周りに集合。挨拶、説明等の後、育苗箱の苗を細かく分け、水にさらし、児童が持ちやすいように束をいくつも作っていきます。

1時間目は4年生、初めての田植えなので、水田に足を踏み入れるのに勇気があるようで、なかなか入れない子もいました。でも、入ってしまえば気持ちが切り替わるようで、

1時間目4年生、2時間目5年生の順に田植えです。苗の束を手に颯爽と水田の中に足を踏み入れた途端に大きな歓声。

水田の両端に縄をまいた棒を刺します。縄を伸ばしすと縄が水田を横切ります。その縄には等間隔で赤い目印が打たれています。縄の目印付近で、苗を2,3本つまんで、水田に苗を植えていきます。しかし、最初はうまくいかないもの。苗が浮いてしまったり、10本以上の苗が植えられたり。しかし、「習うより慣れろ」。やっているうちにコツをつかみ、上手になっていきました。

2時間目は5年生。さすが、昨年度、経験しただけのことはありました。しっかりと、苗を水田に刺すように植えていました。しばらくして、植えた苗が浮いてくるのが少なかったです。

この日に向けて、子供たちのために多くの方の努力とお力添えのおかげで、何とか無事に田植えを終えることができました。しかし、米づくりはまだ始まったばかり。苗の成長を日々見守り、水温に伴う水の管理、虫や雑草への対応等、たくさんの手間をかけて初めて、稲穂が実ります。そのことを少しでも子供たちが理解できるよう取り組んでまいります。



秋の稲刈りでは、また、お世話になります。

《戦争の悲惨さと平和の尊さを考える》 ◎ よく考え ◎ 心豊かに

6月11日(木)、4年生を対象として、埼玉県平和資料館大谷主査による出前授業がありました。

4年生は、国語で「一輪の花」の学習をします。その時期に合わせての出前授業でした。

出前授業では、太平洋戦争時代における銃後の生活を中心とした話を通して、戦争を解決手段としてはならないことを学びました。

世界を見渡すと、ここ数年、戦争を国際問題解決の手段として選択する事例が後を絶ちません。戦争で最も苦しめられるのは、時代が変わろうとも子供、女性、高齢者などの弱い人たちです。

昭和20年の終戦以降、約80年間、戦争をしていません。世界の国や地域を見渡してもこれほど長きにわたり、戦争とかかわりがなかった国は珍しいのです。感じ方はともあれ、日本という国は、約80年間、平和な時代を享受してきたのです。

そして、私たち大人は、この平和が続くために不断の努力をしていかなければなりません。子供たちの未来のために。



焼夷弾を手にして・・・